

わかば

(文責)

熊本市立若葉小学校 校長 坂本多代



三学期 始業式 2024年がスタート！

今年の幕開けは、地震や航空機事故等で日本中に衝撃と不安が押し寄せてきました。やりきれなさを感じつつ、今この時を大切に生きることにについて考えた幕開けでした。また、熊本地震を経験した私たちだからこそ、何かできることはないかを考える日々です。改めて「自分で考え、行動すること」の大切な世の中だと痛感します。低学年には難しかったかもしれませんが、三学期の始業式にこんな話をしました。



「寛容な心」そして、「考え、行動すること」

二学期の終業式の日、「学校」は「みんな」がつくるものであること、「みんな」とは一人一人の「あなた」であること。そして、本物の「学び」ができる学校にしていって欲しいということをお話しました。今日は、校長先生も冬休み中に「学んだこと」を交えながら、新しい年の始まりとして「なりたい自分」「目標」を考える材料にしてもらえればと思いながらお話をします。

若葉小の隣の校区にある「四時軒」に冬休み中に訪ねてみました。ここにゆかりのある人物を知っていますか。そう、横井小楠です。今から200年ほど前の江戸幕府の終わり頃に活躍した人です。この四時軒には、世の中を大きく変えることに力を尽くした坂本龍馬や吉田松陰という歴史上とても有名な人々が横井小楠に教わりたくてやってきたと言われていています。そんな歴史に残る人がこのすぐ近くで過ごしていたということです。どんな人物が知りたくないですか。

この時代は日本の中で、いろいろな考え方の違いから、それを主張するために刀を使って戦っていたような時代です。そんな時代に、横井小楠は「国家は富むだけではない。また軍備を増強するだけでもいけない。地球上で一番大切なのは、お互いにその立場を認め合い、お互いがお互いを許す寛容な心がなければいけない。」と世界情勢にも目を向けながら言った人です。当然、今のように世界各国の情報がスマホ一つで簡単に手に入る世の中ではない中で、色々な書物や経験の中から生み出された言葉だと思えます。

この横井小楠の人生を見てみると、もっと学ぶものがありました。7歳の頃は、親や周りの大人が困ってしまうくらいわんぱくな少年だったようです。しかし、10歳で「学問なんて何の役にも立たない」と思っていたが、やってみると面白い！と思い、あれもこれもと欲深く学び始めます。

13歳で「世を治め、人民を救うことに一生をささげよう」と決意をします。そして、青年になると「学問とは、書物を丸暗記するのではなく、なぜそうなるのかを考えることが大事」とたくさんの彼を慕う弟子たちに教えます。しかし、こんな一面もあった人です。お酒を飲みすぎて数々の失敗をしています。特に「土道忘却事件」と言われていますが、「襲撃を受けてしまった時に、大事な刀を家に忘れてしまったことに気づき、取りに帰ったという事件」も起こします。武士にとっては取り返しのつかない、恥ずべき事件です。失敗しても決して腐らず、不屈の精神でどん底から這い上がり、新しい日本をつくろうと努力したのです。ここにも横井小楠の魅力を感じました。

今日は、ごく一部しか話せませんでした。近くに資料館もあります。ぜひ、「四時軒」に行ってみてください。学びは、至る所にあります。日常にあります。横井小楠が言っていたように物事を知って、「なぜそうなるのか考えること」そして、正しいと思ったら「行動する」ことです。

一人一人が「学びの主人公」になって、三学期の若葉小を作って欲しいと思っています。